

授業科目名	生活の科学			科目コード	G5906P01
英文名	Human Life Science				
科目区分	教養科目 - 自然理解科目				
職名	教授 客員教授		担当教員名	高橋 ゆかり 尾畑 納子	
学部	現代社会学部		学科	現代社会学科	
曜日	水曜日		時限	1限目	
開講時期	1年・2年前期		授業の方法	講義	
必修・選択	選択		単位数	2単位	
授業の概要	急速な科学・技術の進歩によって、私たちの生活は身近な衣・食・住について便利で快適になり、またこのことが今では当たり前と感じるようになっていく。しかし、こうした日常生活は、一方では環境問題や資源の枯渇など将来の地球全体に関わる課題を引き起こしている。大学教育における初年時教養科目として、暮らしの中の身近な現象や関連物質についての基礎的な内容を解説し理解を深める。【SDGs：目標3、12】（担当教員：実務経験あり）				
キーワード	①健康な暮らし	②衣・住環境	③食環境	④物質の科学	⑤持続可能性
到達目標	①現代社会における諸問題を暮らしの視点から理解でき、説明できる（70％）。				
	②自立した人間として、生活におけるさまざまなことについて考えることができる（30％）。				
ディプロマポリシー	1. 「人」としての能力（人間性の向上）				
カリキュラムポリシー	①現代社会に必要な基礎知識の向上				
キー・コンピテンシー（重視する能力）					
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力	
○		○			
教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
◎	○			○	

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	2021年度オリエンテーション 日常生活での科学的視点の重要性について	
	【予習】	
	【復習】	15分
第2回	生活と科学（尾畑） 資料	
	【予習】授業中に指示する	15分
	【復習】暮らしを科学的視点から捉えることについて自分の考えをまとめる	30分
第3回	生活史（尾畑） 特に戦後の生活の変化と経済や環境への影響に触れる。生活に必要な健康について触れる	
	【予習】戦後から現在までの経済変化でその特徴について調べる	
	【復習】生活の変化と環境問題との関わりについて整理する	
第4回	食生活と環境（尾畑） 青年期における食生活について	
	【予習】授業中に指示する	15分
	【復習】食の安全についてまとめる	30分
第5回	食生活と健康（尾畑） 健康と食の関わりについて	
	【予習】授業中に指示する	15分
	【復習】自分の食生活を分析する	30分
第6回	衣生活・住生活と健康（尾畑） 衣料素材やそれに関連する事象、住環境と健康について	
	【予習】授業中に指示する	15分
	【復習】自宅における住環境での問題を調べる	20分
第7回	生活と水（尾畑） 生活に使用する水、富山の水について	
	【予習】授業中に指示する	15分
	【復習】富山の名水を調べる	30分
第8回	キッチンの科学（高橋） 家庭の台所には食材や調味料などの化学物質がある。これらを科学的に見ていく。	
	【予習】	15分
	【復習】授業中に出された課題に取り組む。	30分

第9回	生活の中の高分子化合物（高橋） 私たちの生活用品にはさまざまなプラスチック類が使われている。プラスチックの種類や特徴についての理解を深めるとともに、プラスチックによる問題についても考える。	
	【予習】プラスチックの種類や特性について調べておく。	15分
	【復習】授業中に与えられた課題に取り組む。	30分
第10回	生活の中の金属類（高橋） 身の回りの製品には、さまざまな金属が使われている。一般的な金属類、レアメタルなどについて理解を深める。	
	【予習】携帯電話やスマートフォンの部品としてどのような金属が使用されているか調べてくる。	15分
	【復習】授業中に与えられた課題に取り組む。	30分
第11回	元素のはなし これまで学んできたあらゆるものは元素で構成されている。身近な元素について、理解を深める。	
	【予習】	15分
	【復習】授業中に与えられた課題に取り組む。	30分
第12回	放射性物質と生活（外部講師による授業）	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	化学物質の光と影 私たちが日常的に使う化学物質は、私たちの生活を豊かにしてくれる一方で、使い方を誤ると危険な場合もある。このような物質について理解を深めるとともに、どのように化学物質と付き合っていったらよいか考える。	
	【予習】	15分
	【復習】授業中に与えられた課題に取り組む。	30分
第14回	科学と疑似科学（高橋） 世の中には、科学のように見えるが、科学とは呼べないものが存在する。科学と疑似科学の違いは何かについて、具体例を通して学ぶことにより、科学的な考え方を学ぶ。	
	【予習】身近にある疑似科学について調べておく	30分
	【復習】授業中に与えられた課題に取り組む。	30分
第15回	総括 生活を科学することの意義について考える	
	【予習】	
	【復習】試験対策	120分
第16回	試験	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業への積極的取り組み姿勢・授業中の課題（40%），授業中以外での課題（20%），試験（40%） 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。 【ディプロマポリシー配分比率】人間性：100%		
使用資料 ＜テキスト＞	必要に応じてプリント資料を配布する	使用資料 ＜参考図書＞	藤城敏幸：新編生活科学（東京教学社）他 新しい物質の科学（オーム社）
授業外学修等	授業中に課題を提示します。		
授業外質問方法	授業終了後または電子メール【高橋（y-takahasi@tuins.ac.jp）もしくは尾畑（obata@tuins.ac.jp）】		
オフィス・アワー	月曜日4時限（高橋）440研究室		